

1 研究主題

「読み解く力の向上を目指して」
～かくことを通して～

※本校では、読み解く力とは「取り出す力（判断力）・考える力（思考力）・表現する力」と捉えている。すなわち、読み解く力と活用力は同じであると考えている。

2 主題設定の理由

読解力向上推進事業研究推進校の指定を受けて平成18年度・19年度の学校研究として取り組み、成果と課題をまとめることができた。その中で見えてきたことは、「考える力」「かく力」の向上が必要であるということである。

昨年度行われた全国学力・学習状況調査の本校（6年）の結果をみると、国語A・算数A・算数Bは、県及び国と同等または上回っていた。国語Bは、県及び国を下回っていた。国語科の領域区分では、「読むこと」「書くこと」が低い傾向にあり、「書くこと」はその傾向が顕著であることが分かった。また、算数科の領域区分では、「数学的な考え方」が低い傾向にある。さらに、問題形式では記述式に抵抗感があるということが分かった。2月に行った学力到達度テスト（全学年対象）でも、全国学力・学習状況調査と同等の傾向が全学年を通して見られた。

また、読書力調査（読字力、語彙力など）を行った結果を比べる（平成18年度と平成19年度）と、確実にそれぞれの能力が伸びていることが分かった。特に、本校の特徴として、読字力が高いことが分かった。これは、朝の読書タイムの時間を設定し、毎日取り組んできた成果といえる。

以上の結果をみると、計算や漢字の読み書き、教科の基礎的知識や技能などの基礎的な学習内容については、ほぼ定着している。しかし、文章を正確に読み取る力や数学的な考え方、考えをまとめて書く力が、まだついていないことが分かった。つまり、本校の児童には、基礎的・基本的な学習内容については定着してきているが、基礎的・基本を生かした応用力、すなわち、活用する力がまだ十分に育っていないと考えられる。

そこで、本年度は、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、今まで学習してきたことや自らの経験を活用しながら課題を解決していく学習が必要であると考えている。特に「かくこと」に重点を置いて取り組んでいきたいと考えている。「かくこと」で、「自分の考えを明らかにできること」「自分の考えを伝えやすくなること」「友だちの考えと比較しやすいこと」「理解できたかどうかを自己評価できること」など、活用力を育成するのに必要な「思考力、判断力、表現力等」の能力をつけることができるからである。

3 研究の仮説

基礎・基本を確実に定着させ、取り出す力・考える力・表現する力を確実に向上させていけば、活用する力が育ち、さらに学習意欲が高まるだろう。

4 めざす児童像

自分の言葉で表現できる子

- 取り出す力のある子
 - ・ 目的や課題に応じて、既習事項や経験、資料などから必要な情報を取り出すことができる子

- 考える力のある子
 - ・ 根拠を明確にして自分の意見や考えを持つことができる子（書くこと）

- 表現する力のある子
 - ・ 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる子（聞くこと・話すこと）

5 低中高学年のめざす児童の具体的姿

	低学年		中学年		高学年	
取り出す力	使える宝（既習）を見つける。					
考える力	国語	算数	国語	算数	国語	算数
	言葉や文に着目して、自分の考えを書くことができる。	数量関係を具体物や絵、図を使って表すことができる。	言葉や文を根拠として、自分の考えを分かりやすく書くことができる。	数量関係を言葉や図、式で分かりやすく表すことができる。	言葉や文を根拠として、分えを効果的に書くことができる。	数量関係を図や数直線、式で整理して表すことができる。
表現する力	話し手の方を見て、最後まで聞く。	友だちの意見と自分の考えを比べながら聞く。		友だちの考えを評価しながら聞き、自分の考えを深める。		

	話す	はっきりした声で最後まで話す。	理由をつけて話す。友だちの考えとつなげて話す。	聞き手の反応を確かめながら話す。自分の考えを効果的に話す。
--	----	-----------------	-------------------------	-------------------------------

6 研究の基本方針

現代社会に参加したとき出合うだろうさまざまな課題を解決するために必要な力の一つである「活用力」をつける。そのためには、基礎・基本の確実な定着と活用する力の向上に取り組むとともに、学習に取り組む態度を養う必要がある。「活用力を育む授業づくり」「学びの基盤づくり」に取り組んでいく。

(1) 活用力を育む授業づくり

ア 単元全体を捉えての手だての工夫

- 必要感を持たせる工夫
 - ・目的意識、相手意識を持たせる。
 - ・単元全体を通しての見通しを持たせる。
- 単元構成の工夫
 - ・習得した知識・技能を活用する場を工夫する。
 - ・「習得型→活用型」学習活動の工夫をする。

イ 一単位時間を捉えての手だての工夫

- 「取り出す力、考える力、表現する力」の向上
 - ・3つの力を意識させ、向上させるための工夫をする。
- 課題設定の工夫
 - ・伝え合うことができる課題を考える。
- 板書の工夫
 - ・何を学習し、何が大事かが分かるような工夫をする。
- ふりかえりの工夫
 - ・自分の言葉で表現させる工夫をする。(学年に応じて)
 - ・分かったことだけでなく、どんな知識・技能を使ったかを意識させる。

(2) 学びの基盤づくり

ア 読書タイム・志雄タイムの充実

- 読書タイム
 - ・8時15分から8時25分まで、読書をする。
 - 月・水・金…教科書を音読する。 火・木…自分で選んだ本を読む。
 - ・学年にふさわしい読書をさせるために、町図書館員に本を選んでもらい、クラ

ス単位で本を借りる。

○志雄タイム

・帰りの会后、15分間、国語、算数の基礎基本を復習する。

月・金…漢字・言葉 火・木…計算・作図 水…音読・スキルタイム読書

イ ことばの時間

・文法学習、正しい文章を書くための時間として、「ことばの時間」を設ける。

・1年～4年は週1回、5、6年は2週に1回行う。

ウ 話し合いのルール

教室前面に掲示し、よりよい話し方・聞き方を常に意識できるようにする。

エ 家庭学習

宿題、自学など家庭学習の時間の目安を決め、意識付けを図る。

低学年 20分～30分

中学年 30分～60分

高学年 60分～90分

